

AI 時代におけるアドバイザー真の価値とは

中桐 啓貴

5 月下旬、最先端のテクノロジーと金融の動向を肌で感じるため、協会主催の米国視察へと赴きました。そこで目撃したのは、AI や自動運転によって「人間の生き方」や「企業の価値」が根底から覆るような、凄まじい地殻変動の足音でした。今回は、現地で得た新鮮な示唆を皆様に共有したいと思います。

まず訪れたフェニックスでは、ENVESTNET 社のカンファレンスに参加し、「AI と人間の役割」について深く考えさせられました。現在の生成 AI は、膨大なデータから「確率論的」に次の言葉を予測して紡いでいます。つまり、深い思考の結果ではなく、「統計的に正しいとされる解」を出力しているに過ぎません。将来、AI が意識を持っているかのように振る舞う時代が来るかもしれませんが、私たちが人生の深い悩みに直面したとき、確率論で語る AI の言葉に真の共感を覚えるでしょうか。やはり、心を通わせ、血の通った人間の言葉にこそ救われるのではないのでしょうか。AI の進化は、翻って「高い EQ をもった人間」の価値を浮き彫りにしています。

次に訪れたサンフランシスコでは、テスラの自動運転 (FSD) を体験しました。人間の目は 2 つしかありませんが、テスラ車には 9 つのカメラが搭載されており、人間の運転よりも遥かに安心で快適な乗り心地でした。印象的だったのは、イーロン・マスク氏が目指しているのは「自動運転車」ではなく、「人が自由に選択できる時間を増やすこと」という視点です。

今後「ロボタクシー構想」が実現すれば、自分がオフィスで働いている間、自家用車が自動で稼働して稼いでくれるようになります。さらに、テスラ社が開発する人型ロボット「オプティマス」が家事労働を担い、ビジネスの現場でも議事録作成やスケジュール調整などの事務作業はすべて AI が代替していくでしょう。私たちは近い将来、あらゆる「作業」から解放され、より短い労働時間で、自分らしい豊かな時間を過ごせるようになるはずです。

こうした変化を支えるため、米国のハイパースケーラー (巨大 IT 企業) による設備投資は現在、年間約 100 兆円規模に達していますが、数年内には 300 兆円に上るとの予測を現地のファンドマネージャーから聞きました。一見、巨額に思える投資ですが、すでにプロ

グラマーの仕事の 75%が AI に代替され、労働コストから 32 兆円規模の価値が IT 企業側にシフトしているという米国の研究論文もあります。この圧倒的な生産性の向上が巨大な利益を生み、投資を正当化しているのです。

米国で最先端の地殻変動を体感し、確信したことがあります。

AI は論理的な正解を導き出すことは得意だが、それをお客様が納得して行動できる形で伝えるには、信頼できるアドバイザーの共感とストーリーテリングが不可欠であるということです。

効率化できる作業は AI に全部任せ、そこから生まれた時間で、私たちはより深くお客様の人生に寄り添い、お客様の話を聞き続ける存在へとさらに進化していきましょう。

ぜひ来年の米国視察にも多くの正会員の方のご参加をお待ちしております。